

## 令和4年度 第2回吹田市シティプロモーションアドバイザー会議 議事要旨

### 1 日時

令和5年2月15日(水) 15:00~16:30

### 2 会場

千里市民センター多目的ホール(2)

### 3 出席委員

池田 千恵子 委員長(大阪成蹊大学 経営学部 准教授)

佐賀 健太郎 副委員長(吹田商工会議所)

大平 昌幸 委員(近畿経済産業局 地域経済部 地域開発室 室長)

八木 浩子 委員(ジェイコムウエスト 北大阪局 地域プロデューサー)

伴 晴香 委員(サンケイリビング新聞社 編集部 大阪エリア編集長)

森 俊弥 委員(吹田青年会議所)

藤井 一成 委員(市民委員)

### 4 欠席委員

上野 公嗣 委員(大阪府立江之子島文化芸術創造センター 館長)

### 5 出席職員(事務局)

井田部長、橋本次長、薬師川室長、岡田参事、宮崎主幹、船越主査、吉川係員、杉田係員

### 6 傍聴者

なし

### 7 案件

(1) 前回の御意見への対応状況

(2) シティプロモーションの取組状況

## 8 主な質疑、意見等

【7（1）及び7（2）のうち、令和4年度の主な取組について】…資料1、2

| 発言者 | 発言内容   |
|-----|--|
| 委員  | <p>大学連携の下水道プロジェクトについて調べてみた。フォロワーは少なく、そこまで見られてはいいのではないかと。学生さんが抜けてからも職員が自分達で継続することが重要。「実は〇〇」というコンテンツは見たい人が一定数いるので続けてほしい。</p> <p>下水道だけでなく他部署でも展開できると良い。</p>   |
| 事務局 | <p>結果の後追いや今後の取り組み方針については下水道部と相談していきたい。</p>   |
| 委員  | <p>職員研修について、研修後アンケートの意見や、研修の効果を教えてほしい。</p>   |
| 事務局 | <p>シティプロモーション研修は講義形式だったため、各部署でなかなか実感が湧かないのではないかと心配もあったが、「自分の部署はシティプロモーションには関係ないと思っていたが、工夫してできることがあると気付いた」という感想が多かった。一方で、「自分の部署はシティプロモーションと関連がないので、この研修を受ける必要性を感じられない」という感想も一部あった。一見、シティプロモーションと関係がない部署でも、例えば、市民への通知文をわかりやすいものに変える等の工夫がシティプロモーションにつながるなど、全ての職員がシティプロモーションを担っているという趣旨で研修を実施したが、なかなか伝わりにくい部分もあると感じた。</p> <p>来年度も研修を継続予定で、意識変革を地道にやっていかなければいけないと思っている。ワーク形式を取り入れて深掘りするような内容も検討したい。</p> <p>動画研修は YouTube 動画を視聴する形式で実施し、各自の都合の良い時間で視聴してもらった。内容は動画を作成するテクニックを伝えるものなど。アンケートでは、「自分たちの取組を動画にまとめて発信することが大事だと気付いた」という声が多かった。「発信は積極的に行っているが、コンテンツをわかりやすくまとめて発信しないと届かない、その手段の一つに動画があるのだと気があった」「パワーポイントでも動画ができると知った」等の感想もあった。各部署の職員のレベルアップに貢献できたと思っている。</p> |
| 委員  | <p>SNS に限らず、情報発信はただ発信したいものを発信しても届かないので、相手にとって共感性の高いものであったり、価値のある情報だったり、ターゲットにリーチするということを踏まえて発信しないといけない。そのあたりを重点的に進めてもらえたらと思う。</p>  |
| 委員  | <p>シティプロモーション研修の講師の河井先生とは、一緒にある町のシティプロモーションを1年間させていただいた経験がある。講義だけでなく、コンサルティングではないけれど、何かしら一緒に動くことができれば良いと思った。</p> <p>動画研修について、市の職員がスキル向上を図る必要はあるのか。私たち民間事業者においても動画のスキルを磨くとなると費用も時間も相当かかる。どのよう</p>   |

|     |  |
|-----|--|
|     | な目的で動画研修を実施したのか。   |
| 事務局 | 動画研修の講師は元公務員の方。行政の発信内容の中には、動画で見せた方がわかりやすいものがあるという観点で、様々な手法を紹介してもらっており、PR動画のような洗練された凝った動画を作ることだけを目的とはしていない。例えば、消火器の使い方を市民向けに説明する場合、文章で説明するよりも、動画を見てもらった方がわかりやすい。そういった説明用の動画などは簡単に撮れて、市民の利便性向上、啓発内容の発信力拡大に繋がると考えている。<br>応用編として、プロモーション用の動画も、自治体の PC 環境である程度は格好よく作成できるという内容もあり、意欲のある職員にはチャレンジしてもらえきっかけになったと思う。                                    |
| 委員  | 作った動画をどのようにしたら見てもらえるかというところが難しい。動画のクオリティよりも動画を見てもらうためのプロモーションも重要。  |
| 委員長 | 動画研修の目的は、日常業務の中で動画で伝えることも可能であるという気付きを与えることと回答いただいた。動画を見てもらうために何が必要かについては、意見として受け止めてもらい、今後の研修や取組に活かしてもらおう。  |
| 委員  | 自身のことだが、今年手術をするなどして、その時に吹田の福祉はしっかりしていると思った。ただ、情報発信が十分にされていないと感じた。実際に困っている人は情報が欲しいのに見つけにくい。HP に書いていますと言われ、見に行くと確かに書いていたけど、市民から見に行かないと情報にたどり着かないのは残念。  |
| 委員長 | 今年度、子育て世代に向けた PR を実施したように、福祉や健康医療の分野でも同様に部局横断して、まとめて見せるなどの工夫した発信を積極的に実施して欲しいと思う。   |
| 委員  | 研修で管理職を呼んだのは良い。もう一步踏み込んで、それではあなたの部署では何ができるのか、というところまでアクションを起こしてもらえるところまで考えられるとなお良い。シティプロモーションとは、という講義の後に、河井先生に吹田市のやっていることで何が足りていないか、もっとこうしたらいい等の具体的なアドバイスや意見を聞くというような工夫をしないと、なかなか参加者に我が事と思ってもらえない。<br>前回の会議で全庁的な取組が必要だと発言した。市としてシティプロモーションを全庁でやっていこうとなっているはずだが、そのような空気ができていない、意識が共有されていないというのが現状だと感じる。研修も大事だが、行動につながるようプッシュするという両輪でやっていく必要がある。 |
| 事務局 | 研修の後半には各部連携の取組を紹介して、各所管の課題を一緒に取り組みましようかと伝えてはいる。  |
| 委員  | それだけでは刺さらない。もうひとつ踏み出せる仕掛けが必要。  |
| 事務局 | 下水道プロジェクトでは動画を作っただけで終わらず、取組を紹介するための発表会も実施した。市長に出席してもらい「下水道部はよくやった。他の部署でも実  |

|      |   |
|------|---|
|      | <p>施してもらいたい。」とのコメントをいただき、発表を見に来た各部署の職員にもこのようなことができるのだとわかってもらったのではないかと。次に続く室課が出てくると良いなと思っている。</p> <p>子育て世代向けの部署横断的な連携には、取組を推進するキーマンとなるような職員がいた。そのような人を見つけることも大事だと思った。</p>  |
| 副委員長 | <p>吹田の出来事にはアンテナを張っている方だが、今回報告いただいた取組内容についてあまり知らないことが多かった。プロモーションが足りていないと言ってしまういいのかわからないが、様々な取組を実施しているのに知られていないのはもったいないと感じた。大学生との連携も知らなかった。公共施設のセンスアップの紹介でも、吹田市は景観に配慮したまちを目指すと書かれているがそれを知っている人はどれくらいいるのか。せつくなので事業を実施するタイミングでしっかりPRした方がいいと思う。</p> <p>古江台中学校で話をする機会があったが、参加者約160人の中ですいたフェスタに行った人を聞くと誰もいなかった。すいたフェスタはこれまで、JR吹田、江坂、南千里と3会場に分けて実施していたものを、吹田がひとつになるという想いも込めて会場を万博記念公園1箇所に変えて今年度初めて開催したという経緯がある。万博周辺地域である古江台の中学生がすいたフェスタに来ていないというのは正直ショックだった。勝手な印象で会場が移動してしまったJR吹田周辺等からたくさん来場者を呼ばなければいけないとバスを増便したりしていたが、見えてないところがあると気が付いた。</p> <p>そもそも思い込んでいる部分がないか一度立ち返り、失敗も成功もきちんと振り返り、次の機会に活かすことが重要。もっと市の取組を市民に知ってもらえると良い。</p> |
| 委員   | <p>市民は自分の住んでいる地域しか行かない。フェスタは万博の周辺に住んでいる人しか行かないので、市内全域でやると良いと思う。</p>   |
| 副委員長 | <p>先程の話は、万博エリアに近い地域の方が意外とフェスタに来ていなかったということ。吹田まつりはもともと3会場あったが、要は自治会まつりのような体制で、体制が大変になってきたなか50年を迎え一旦区切りをつけた。それをすいたフェスタとして一新し、万博記念公園で開催。市が中核市になり、2025年には大阪で万博があるという中で、あえてすいたフェスタと名称を変えて万博に会場を移した意味がきちんと伝わっていないのかもしれない。来年はこの辺りを突き詰める必要があると感じている。</p>  |
| 事務局  | <p>副委員長の発言のとおり、今年度初めて開催してみてわかったことが様々あり、来年度の課題と捉えている。意外と周辺地域の方が来られていないことについても知ることができて良かったと思う。失敗した部分は見直して今後取り組みたい。</p>  |
| 委員   | <p>すいたフェスタは今後継続していく中で磨かれていくと思う。一方で、シティプロモーションの意義から考えると、本来は地域の方が自分たちでおまつりを開催す</p>  |

|     |   |
|-----|---|
|     | <p>るようにならないといけないと思う。私は江坂にお店があるので江坂のおまつりをやりたいと思い、仲間を募って、開催場所の公園の使用許可を取った。ただ、行政手続き等のハードルはすごく高い。イベントをやりたい人、潜在的に思う人はたくさんいる。自分ができるんだという実感を与えることもシティプロモーションなので、シティプロモーション促進補助金のこと、申請すれば公園を1日借りられること等をもっと広く伝えていく必要がある。行政がイベントを主催するより、このようなお手伝いができますといった姿勢を発信してもらえたら市民はやりやすくなる。</p> |
| 事務局 | <p>市民の方々の行動変容という視点も重要だと感じている。河井先生は「関与の窓」と説明されたが、市民の皆さんはそれぞれ想いを持っていて、その想いを行動に移してもらえるような働きかけが必要だと思う。気になる人をまちと北摂という情報プラットフォームで取り上げて記事にしたり、自分達で書けない場合は情報提供して取材に行ってもらったりしている。自分もできる、やってみようと思える仕組みづくりを進めていきたいと思っている。</p>  |
| 委員  | <p>外向きの仕組みづくりはとても重要。全庁的な取組を進めてほしいと言っているが、シティプロモーション推進室の取組と、全庁的な取組はイコールではない。両者が合わさってプロモーションになる。</p>  |

【7（2）のうち、令和5年度の取組予定について】…資料3

| 発言者  | 発言内容   |
|------|--|
| 委員   | 職員研修について、実施するだけでなく、まとめてパッケージできるものはないか、研修参加者と一緒に考えてコンテンツを発掘すると良い。   |
| 事務局  | シティプロモーション推進室はプロデュース、マネジメントする立場として、全庁的にプロモーションを進めていきたいと思う。   |
| 委員   | なぜその取組をするのかをもう一步踏み込んで資料に記載していただきたい。シティプロモーションの促進を全体的に図っていくということが一義的な目的であって、各取組の効果を考えた時にその一義的な目的と資料に記載してある目的との間にある、実施したことによる効果やどのように状況が変化したか、というところまで明記されていると良い。例えばハッシュタグキャンペーンでは、なぜ市民から発信されないといけないのかと考えた時に、キャンペーンの結果、機運を醸成したいのか、魅力を発掘したいのか、吹田を知ってもらいたいのか、これら全てかもしれないが、最も重視するコアはどこかということ突き詰めておかなければ、ただ実施して終わりになってしまう。どの取組においても、期待する効果、変化を具体的に考えて資料に落とし込んでもらいたい。 |
| 事務局  | 一義的な目標は吹田に住み続けてほしいということ。市のことを知っていれば知っているほど市に愛着が湧くことが分かっている、現在の定住意向は61%ほどだが、子育て世代と高齢者とは当然差がある。定住意向を上げるために、この層に対してはこのような取組がマッチする、といったことを探し続けている段階。   |
| 委員長  | 本質的な目的やどのような状態にしたいのかについて、本会議の委員や市民は記載がないとわからない。市職員は日々話し合っていて共通認識を持っているので、そこを資料に記載するだけでわかりやすくなると思う。   |
| 副委員長 | 項目が一番先にあると目的まで入ってこない。どのような状態になりたいのか、そのために何をするのか、具体的な取組は何か、という順に書くとわかりやすい。  |
| 委員   | 資料3について、全庁的なシティプロモーションの体制の話とくわいが同列になっているところに違和感がある。概念整理をしてから、資料に落とし込むと良い。  |
| 事務局  | 計画のように体系だって取組予定をまとめることを試みたこともあるが、具体的な取組を実施することを優先すべきという意見もあり現段階では取組を前面に出した説明になっている。委員の皆様が言われるように、目的と取組の関係性が見えるよう工夫をしていきたいと思う。  |
| 委員長  | 概念区分や階層の異なるものが並列しているとわかりにくくなる。レイヤーやカテゴリー分けをすると良い。<br>来年度の取組ということだが、3ヶ年、あるいは5ヶ年の中での、令和5年度の取組としてこのようなことをする、という説明だとなお良いと思う。先のことを含めた中での来年度の位置づけや、ステップをどのように考えているのかについても知りたい。   |

|     |   |
|-----|---|
| 委員  | <p>マスコミ関係者としては、万博のことや吹田くわいのことが気になる。吹田くわいは少しずつ知名度が上がってきている感覚はあり、どのようにPRしていくのか興味を持っている。SNS で市民を巻き込んでいくことは、私たちもやっていかなければと言っているがなかなか難しいことだと感じている。連携できることがあればしたい。</p>  |
| 委員  | <p>市民のニーズを調べることができていないと思う。市民にまず聞いてほしい。</p>  |
| 事務局 | <p>市としては市民意識調査を実施している。また、スーモや大東建託等の民間の調査から、転入時にどのような理由で吹田を選んだか等は情報を得ている。</p>  |
| 委員長 | <p>資料1の9について、対応が職員研修になっているところは少し気になっていた。市民意見を調査やその他の手段で得ているか。</p>   |
| 事務局 | <p>市ではどの部署においても、何か事業を実施する際には調査等、様々な手段で市民意見を聴いている。また、市職員は日頃から業務の中で市民の声を聴いている。市民ニーズは各所管でしっかり聴いているので、各所管が市民ニーズに応える取組ができるよう、シティプロモーション研修で後押しができれば良いと思っている。</p>  |
| 委員  | <p>繰り返しになるが、シティプロモーション推進室がシティプロモーションをするのではなく、全庁でシティプロモーションをするというスタンスで資料も作成するとよい。今回の資料の作りが、シティプロモーション推進室でやること、の切り口で書いてあるから混乱してしまうのではないか。</p>   |
| 事務局 | <p>今年度の取組では、我々がプロデューサーのような立場になって連携できているものもあれば、一方で原課がなかなか動かないためにこちらで引き取った取組もある。シティプロモーション研修は全庁的な取組を進めるために効果的だと感じている。各部に自分事になってもらうとともに、若い職員が何か取り組みたいと思った時に、シティプロモーション推進室に相談してみようと思えるような庁内への発信も意識していきたい。</p> |